

鎌ヶ谷市多文化共生推進会議 第5回会議 会議録

日 時 平成29年3月17日（金）午前10時～11時30分
場 所 鎌ヶ谷市役所5階503会議室
出席委員 信夫稔委員長、品川洋之助副委員長、鷹野悦子委員、
井手勝則委員、海老原メリジェーン委員
欠席委員 高橋寛委員、鈴木吉久委員
(敬称略)
事務局 大塚企画政策室長、仲村主任主事
記 録 仲村
傍 聴 者 なし

(1)「施策の柱3 暮らしやすい環境づくり」についての意見交換

(事務局)

それでは、鎌ヶ谷市多文化共生推進会議第5回会議を開催する。進行の程を信夫委員長にお願いしたい。

(委員長)

本日は、鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画に掲げられている「施策の柱3 暮らしやすい環境づくり」及び「施策の柱4 体制の整備」についての意見交換を行いたい。

それでは、早速、「施策の柱3 暮らしやすい環境づくり」についての意見交換を行いたい。

始めに、各委員より、記載いただいた意見交換シートの内容についての説明をお願いしたい。

まずは、「①行政サービスの充実」についての意見交換を行う。

(委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・国際交流、多文化共生、多文化交流等の言葉自体が市民全体に未だ浸透している状態ではない。従って、行政が中心となり、言葉の意味から始まり、各団体の活動内容を機会ある毎にPRし、行政全体と市民の意識改革を根強く推進していく必要がある。

②アイデア

- ・A4版のカラーチラシを不定期に発行し、国際交流、多文化共生等の説明、各団体の活動状況を載せて配布及び掲示する。
- ・行政職員及び各団体事務局の語学力を向上させる事によって、外国人への対応力を強化する。

③アイデアの具現化に向けて団体・個人ができること

- ・資料作成及び配布等に関わる協力、活かした語学の訓練への協力

④その他

- ・国際交流、多文化共生等の説明、各団体の活動状況が掲載されたチラシの配布及び掲示を継続することが新たな会員加入への道となる。

(A委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・外国で生活する上で一番問題になるのが、日本語の不自由さである（日本語教室に来ている学習者に聞いてみても大体多い意見）。

②アイデア

- ・登録制の通訳ボランティアを派遣する（学校説明会、学童の説明会、保育園申込、手当の申請等）。
- ・日本語教室増設のため、養成講座を毎年行い、ボランティアを増やす。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・日本語教室を増設し、開催日を増やす。毎日どこかで教室が開催されている状況が好ましい。

(B委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・生活情報の多言語での情報提供、生活情報相談窓口、スタッフの言葉の壁などの問題がある。

②アイデア

- ・多言語による広報誌の提供を定例化する。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・紙面やHPで情報提供をする。

④その他

- ・外国人スタッフを積極的に雇用する。

新鎌ヶ谷地区の地の利を最大限に活かして、先鋭的な事に取り組み、鎌ヶ谷を暮らしやすいまちにしていかなければならない。

(委員長)

鈴木委員は本日ご欠席であるが、事前にご意見を伺っているので、事務局から代読いただきたい。

(事務局) ※事前にいただいた下記ご意見を代読。

①現状と課題

- ・グローバル化の中、中学校にも外国人の生徒が少数だがいる。日本語については、日本語指導講師を派遣してもらっているが、日本の文化に慣れないような部分も感じられる。

②アイデア

- ・外国人住民のニーズをきちんと把握し、生活していく上で困っていること等を相談する窓口を設ける。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・鎌ヶ谷市の広報などを通じて、必要と思われる言語の語学ボランティアを募集し、外国人住民に対応できるようにする。

④その他

- ・国際交流協会から発信している広報にも、外国人住民の役に立つ情報を提供する。

(C委員)

意見交換シートの内容（全体）について説明。

【「施策の柱3 暮らしやすい環境づくり」全体を通しての意見】

○優先することの第一として、効果的な広報・情報の提供に力を注ぐべきではないか。何よりも先ず、外国人が市のサービスを受けている（受けられる）ことを知らせて、市の行政に関心を持ってもらわなければ、市の行政との接点生まれず、市のひとり相撲となってしまう。それによって、外国人が市の行政に関心を持ち、市に相談に行こうとか、隣の人に相談してみようとかいう気持ちになるのではないだろうか。そのために、市広報を外国人向けに年何回か、少なくとも2回（春季と秋季）、完全な外国語（英語・中国語・韓国語）版で、現在の市広報と一緒に配布したらどうか。転入時に配布されるガイドブックは十分に見なかったり、どこかへしまい忘れてしまったりするから、今の生活に活かされる情報を提供していくことが望ましい。今生活者として必要としている事項を分かり易く情報提供できるようなものが求められる。配布については、民生委員などにより別途戸別配布をしたらどうか。広報の内容としては次のようなものが考えられる。

- ・市の行政案内（学校教育、福祉、医療、年金、税金、救急・消防・犯罪・防犯）
- ・外国人相談窓口、多文化共生推進センターの紹介
- ・広報のQ&Aコーナーなど
- ・市内公共施設行事等の案内

(副委員長)

(1)「多文化共生セミナー」参加報告。

日時：平成28年9月4日（日）

場所：浦安市国際センター

講師：高橋伸行氏（特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会理事、船橋市市長公室秘書課国際交流室室長）

内容：「多文化共生」入門編の講義及びグループワーク

(2) 意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・外国で生活する中で起きる「情報の孤立化」を防ぐための仕組みの構築とそのフォローアップが最も重要と考える。

②アイデア

- ・自治会を通じての行政サービス情報、例えば防災・防犯等に関する情報が、外国人に行き届く仕組み作りが必要である。
- ③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること
- ・Face to Face による伝達を十分行うのは現在の行政の機能では困難と考えられるので、ボランティア活動により、情報伝達が徹底できると考える。即ち、フレンドリーな友人関係を構築し、自然な支援体制の形成を目指す。

(委員長)

委員の皆さんの共通認識として、「言葉の壁の存在」と「情報の伝達手段の充実」といったキーワードが挙げられていた。

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(B委員)

行政は、外国人の方に対する施策を実施していくに当たり、「人・物・金」をしっかりと措置しているのか。

(事務局)

「人・物・金」の措置として、一例を申し上げますと、多文化共生推進センターに職員を配置し、センターの管理運営に要する経費として、年間約500万円程度を措置し、様々な施策を実施している。

また、多文化共生推進センターに市の国際団体から通訳ボランティアを派遣していただく他、翻訳システムサービスとして、市HPの多言語化（英語・中国語・韓国語・タガログ語・タイ語の5か国語）にも取り組んでいる。

(委員長)

次に、「②情報の提供」「③情報の収集」についての意見交換を行う。

(委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・現在の情報の在り方を見直し、その後新しい情報システム（IT化された情報のみではなく、機関紙・案内状・チラシ・総会資料も含めた資料又は情報体系）を構築する。

②アイデア

- ・外国人が知りたい、見たい、読みたい情報とは何かを整理し、資料又は情報の体系化を急ぐ。
- ・資料又は情報の発行・発信方を明確にし、外国人からの相談業務の充実に結び付ける。

③アイデアの具現化に向けて団体・個人ができること

- ・資料、情報の作成・発行、発信作業への協力

④その他

- ・各団体の年間活動計画（定期刊行物含む）は年度当初にチラシとして、会員や関連自治体に配布する。

(A 委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・鎌ケ谷市に多く在住している外国人の言語による情報はあるが、少数の国の人たちの言語は無い状態が気になる。外国人はホームページなどで検索している例が多いと感じる。

②アイデア

- ・ウェルカムパック※は良いアイデアである（英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語など）。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・日本語教室でウェルカムパックの内容を説明する。
 - ・市広報を一緒に読み、漢字の練習をするとともに、行政の仕事を説明する。
- ※ウェルカムパックは、病気・事故・災害など緊急時への対応、ごみの出し方市役所でできる主な手続き、保険・年金、税金、在留や外国人登録の手続き、相談できる場所をまとめた小冊子

(B 委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・生活情報（ショッピング情報など）の多言語での情報提供、生活情報相談窓口などの不足、スタッフの言葉の壁などの問題がある。

②アイデア

- ・多言語によるショッピング情報誌などを無料で提供する。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・鎌ケ谷市商工会、鎌ケ谷市商店会連合会による「鎌ケ谷ショッピングガイド」の作成、配布を行う。

④その他

- ・外国人スタッフを積極的に雇用する。

行政は縦割り組織なので、もっと横の連携（庁内・庁外）をしっかりと、事業に取り組んでほしい。

(委員長)

鈴木委員のご意見を事務局から代読いただきたい。

(事務局) ※事前にいただいた下記ご意見を代読。

①現状と課題

- ・グローバル化の中、中学校にも外国人の生徒が少数だがいる。日本語については、日本語指導講師を派遣してもらっているが、日本の文化に慣れないような部分も感じられる。

②アイデア

- ・外国人住民に役立つ情報提供が必要である。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・ホームページの充実が必要である。

(副委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・情報提供の際の外国語による説明・伝達が必要となる。そのために多言語による情報提供システムの構築を推進すべきである。

②アイデア

- ・多言語通訳ボランティアによるサービスが欠かせない。行政との連絡・連携を密にして効果を上げるべきである。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・積極的にボランティア活動に参加し、外国人との友人関係を構築し、地域に住みやすい生活環境を作る。

(委員長)

委員の皆さんの共通認識として、情報の提供、通訳ボランティアの活用、外国人のサポートといったキーワードが挙げられていた。

(2)「施策の柱4 体制の整備」についての意見交換

次に、「施策の柱4 体制の整備」についての意見交換を行いたい。

始めに、各委員より、記載いただいた意見交換シートの内容についての説明をお願いしたい。

(委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックを活動の最大テーマとするならば、単に行政間の体制整備だけに止まらず、学校(大学含む)、職業訓練所、企業及び各団体を含めた中であるべき姿を描くべきである。但し、体制が大きくなることは色々な面でリスクも大きくなる危険があるので、そこは行政が旗を振りながら「小は大を兼ねる」形(体制)を作る。

②アイデア

- ・大学(外国人留学生を所管する部門)との連携
- ・職業訓練所との連携
- ・企業との積極的な連携(外国人の就活に結び付ける)

③アイデアの具現化に向けた効果的な取組み

- ・体制整備には、行政が中心となり舵取りをする必要があるが、市民及び各種団体との連携も必須であるため、そこが行政の腕の見せ所となる。

④その他

- ・現状のような年1回程度のイベント企画では、効果的な体制維持も難しい。従って、小さなイベントで良いから、他部門も参加が可能なイベントを不定期に企画し、連携密度の維持を図る事も重要である。

(A委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・生活習慣、風習、教育等、日本の環境によるストレスを感じた時の相談窓口があると楽になるのではないかと。

②アイデア

- ・週1回、予約制でボランティアによる相談会を開催する（英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語など）。
- ・県の法律相談などをPRする。

③アイデアの具現化に向けた効果的な取り組み

- ・夫婦間のトラブル、近所の人とのトラブルなど何でも相談できる場所を設置する。

(B委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・生活とは、行政が支援するものと、民間の商業者が支援するものとに分かれる。行政と民間の商業者との連携を強化し、インバウンドの受け入れに向けた体制の準備などを行う。

②アイデア

- ・多言語によるショッピング情報誌などを無料で提供する。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・鎌ヶ谷市商工会、鎌ヶ谷市商店会連合会による「鎌ヶ谷ショッピングガイド」の作成、配布を行う。
- ・鎌ヶ谷市商工会、鎌ヶ谷市商店会連合会主催のイベントへ参加する。

④その他

- ・外国人会とのコミュニケーションを形成する。

多文化共生推進センターとも連携し、商業の活性化に向け、様々な取り組みを実施していきたい。

(委員長)

鈴木委員のご意見を事務局から代読いただきたい。

(事務局) ※事前にいただいた下記ご意見を代読。

①現状と課題

- ・グローバル化の中、中学校にも外国人の生徒が少数だがいる。日本語については、日本語指導講師を派遣してもらっているが、日本の文化に慣れないような部分も感じられる。

②アイデア

- ・行政で既に取り組んでいる施策を充実させることが大切である。

③アイデアの具体化に向けた効果的な取り組み

- ・ボランティア養成講座は良い企画なので、充実させていく。

(副委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・日本語指導講師派遣事業、ボランティア日本語講師養成講座の実施など基本的な施策は推進されるべきである。

②アイデア

- ・多文化共生を「相互乗入的」に考え、お互いの文化を紹介するイベントを開催する。例えば近隣の国際交流協会のフェスタに参加する形で自国文化を紹介する。

③アイデアの具体化に向けた効果的な取り組み

- ・上記ボランティア活動の窓口となる行政の窓口には専任の職員を置きボランティア登録制度など新しい施策を主導的・継続的に推進するとともに自身の自己啓発に努め、問題意識の向上を図る。

(委員長)

委員の皆さんの共通認識として、行政と民間企業も含めた他団体との協働による体制整備、通訳ボランティアの育成といったキーワードが挙げられていた。

(3) 事業の具現化についての情報共有

(委員長)

最後に、事務局より、「事業の具現化についての情報共有」についての説明をお願いしたい。

(事務局)

～ 資料に基づき説明 ～

(副委員長)

例えば、自治会に外国人専門窓口を設置する、市に多文化施策の専任職員を配置するなどの体制整備をしないと、事業の具現化に結び付かないと考える。

(委員長)

やはり、しっかりとした外国人専門窓口を1箇所整備するだけで、事業の具現化への大きなステップになると考える。

(B委員)

行政はボランティアの業務を理解し、業務を丸投げするのではなく、ボランティアを支える制度も含め、どうすればボランティア活動を継続していただけかを考える必要がある。

(A委員)

市の取組みで、日本語教室などを開く際には公共施設を無償で予約していただいております、学習者にも還元できるので、非常に助かっている。

このような実績を一つずつ積み重ねていけば良いと思う。

(事務局)

来年度は、皆様からいただいたご意見を少しでも具現化し、市の多文化共生につなげていきたいと考えている。

引き続き、大所高所からのご意見をいただきたい。

(委員長)

それでは、本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成29年4月14日

氏名

品川 洋之助

氏名

鷹野 悦子
